

創立30周年記念事業について

30周年記念事業実行委員会

情報処理学会は、1960年に創立され、本年4月に30周年記念日を迎えた。創立当初、300名余の会員で発足したが、現在すでに32,000名の会員を擁するわが国有数の学会に成長した。これは単に当学会会員の努力のみによるのではなく、関係諸官庁のご指導をはじめ、関連学協会、産業界の幅広いご協力のたまものと、あつくお礼申しあげたい。

当学会では、創立30周年を迎えるに当たり、これまでの輝かしい情報処理の歴史をかえりみ、さらに将来の諸問題を展望し、10年後の21世紀に向かって、なお一層の飛躍の基礎を固めるため、記念祝典をはじめ、いくつかの記念事業を計画し、現在実行しつつある。

この記念事業は、すでに3年前の1987年2月の第307回理事会で、20周年記念事業の実績を参考に行うことが決定された。これをうけ記念事業計画を推進するために、30周年記念事業実行委員会（委員長大野前会長）のもとに、同年10月の第314回理事会で（1）祝典（式典、祝賀会）（2）全国大会（3）国際会議（4）30年史（5）記念出版（論文募集、学会誌特集）（6）未来検討（7）特別賛助活動などの諸計画と、各委員会の設置が承認された。

これらの記念事業は、各委員会のもとに、審議検討がすすめられ、現在着々と実行に移されてきている。ここに会員諸氏にその概要をご案内するとともに、今後の積極的なご協力をお願いする次第である。

なお、個々の事業の詳細は、必要に応じて学会誌を通じ、会告あるいは報告を行う予定である。

各記念事業のあらまし

1 記念全国大会

1990年3月開催の第40回全国大会は、4日間（従来は3日）の初日の13日「創立30周年記念講演会」として、早稲田大学大隈講堂で一般公開し、550名の参加があり盛会であった。講演の主題はつぎのとおりであった。

講演

- 1) 21世紀における情報ネットワークの展開
（同時通訳）Ellen M. Hancock (IBM)
- 2) 今後の情報産業の発展について
唐津 一（東海大）

パネル討論

日本における情報処理教育のあり方

司会 野口 正一（東北大）

草原 克豪（文部省）、國井 利泰（東大）、牛島和夫（九大）、水野 幸男（日電）、三浦 武雄（日立）、ビル トッテン（アシスト）

なお、14日～16日の3日間は、同大学理工学部で恒例の全国大会を開催した。

2 記念論文

創立30周年記念出版委員会（委員長 石井前副会長）のもとに、記念論文小委員会（委員長 牛島前理事から村井理事に交替）、拡大論文誌編集委員会（委員長 村井理事）、記念論文選定委員会（委員長 野口副会長）を設け、論文募集の会告ならびに、論文1編につき3名の査読にもとづく厳密な選考作業を行った。その経過は、当学会誌に詳細に述べられているので省くが、1989年8月締め切りで、114編（うち英文13編）の応募があり、本年2月に入選4編、佳作7編の11編（うち英文1編）の受賞が決定し、6月の記念祝典において表彰が行われる。

なお、受賞論文は、当学会誌31巻5号「創立30周年記念論文特集号」に掲載されているが、秋の第41回全国大会（9月4日（火）～6日（木）、東北大学教養部）において発表する。また、受賞外論文のうち、一般論文になり得る論文に対しては、査読者のコメントを添えて、一般論文としての再投稿を勧めた。

3 情報処理学会“未来像”の策定

30年にして3万名に達した学会の未来像及びその具体化にむけて、未来委員会（委員長 尾関元会長）をもうけた。1988年3月の第1回委員会以降13回、小委員会6回開催した。第1段階（第1回～4回委員会）では、各委員からの意見・提案を自由討議により整理統合して6項目にしばり、第2段階（第5回委員会）で、さらに3項目にしばり検討を深めて、環境の確保が最重要の案件であることが認識された。第3段階（第6回～13回委員会）では、元副会長松浦雄雄氏（工学院大）から提案された「新宿地区の情報センター街区構想」につき審議し、学会の立場から同構想の検討に参画して意見を述べるべきであると結論された。

1989年12月の第338回理事会に「未来委員会報告書」が提出され、翌年1月の理事会の審議を経て、財

務委員会（委員長 戸田副会長）において「新宿地区情報センター街区」移転の条件設定につき審議検討が行われている。

4 記念祝典

本年4月22日が創立30周年記念日であるが、6月18日（月）に虎の門パストラルにおいて、関係省庁をはじめ、学会歴代役員ほか関係者、関連学協会ならびに業界の有志のご出席を得て、記念式典、記念講演、祝賀会（一般の参加費5,000円）を開催する。総務委員会（委員長 福井元理事）ならびに記念祝典実施委員会（委員長安藤 馨）にて、準備および実施することとなっている。

なお、記念特別講演は、「情報化社会への課題（仮題）」につき、山下 勇氏（JR 東日本）が行う。

5 記念出版

「情報処理学会30年のあゆみ」（B5判250頁）を出版するため、出版委員会（委員長 石井前副会長）のもとに小委員会（委員長 小泉前理事）をもうけ本年8月発行の予定で編集をすすめている。目次の概要はつぎのとおりである。

第1部 学会30年のあゆみ

1章 30年の軌跡

1960年代（高橋 茂）

1970年代（穂坂 衛）

1980年代（大野 豊）

2章 活動のあゆみ（事務局）

会員 歴代役員 支部 総会
機関誌 調査研究 全国大会
国際活動 記念事業 出版
表彰 会計 事務局 その他

第2部 規格活動の軌跡（高橋 茂）

第3部 情報処理技術の発展と展望 （野崎昭弘他15名）

6 30周年記念国際会議

30周年記念国際会議組織委員会（委員長 山本卓真）のもとに、プログラム委員会（委員長 石田元理事）および運営委員会（委員長 島崎元理事）を組織し、その準備を進めているが、10月1日（月）にチュートリアル、10月2日（火）～5日（金）に本会議が行われる。

なお、論文は、本年2月1日で締切りで、252編（うち海外155編）の論文が集まり、著者への採否を1990年5月1

日に行った。トラックA（ソフトウェア技術）、B（並列コンピューティング）、C（人工知能）、D（高度情報システム）の発表論文約100編のほかに、特別セッションに24編ほどが予定されている。招待講演および日程の概要はつぎのとおりである。

10月2日の記念講演

猪瀬 博氏（学術情報センター）

10月3日の基調講演

Computing in the '90s

Steven P. Jobs 氏（Next 社）

10月4日の特別講演

（仮想マシン）+（ASIP）

=（未来に向けてのシリコン解法）

嶋 正利氏（V.M. Technology 社）

7 特別賛助活動

30周年記念事業財務委員会（委員長 出川元会長）を設け、諸記念事業の必要経費のうち、約半分の1億1千万円を日本電子工業振興協会、情報サービス産業協会、その他関連業界の協力を得ながら、特別賛助会費として募集し、ほぼ目標額達成の目途がついた。

また各会員にも10千円単位で、募集期間を1990年3月末として、広く個人の賛助をお願いし、本年3月末現在で約220万円の賛助金が寄せられている。

顧問団

創立30周年記念事業実行委員会——財務委員会

- 総務委員会
- 国際会議組織委員会
- 記念出版委員会
- 全国大会支援委員会
- 未来委員会

国際会議日程

	午 前	午 後	夜
10月1日(月)	チュートリアル 9:30 17:00		
10月2日(火)	開会式・記念講演 10:30	セッション (5会場) 17:00	レセプション 17:30~19:30
10月3日(水)	セッション (5会場) 9:00	基調講演 セッション (5会場) 17:30	
10月4日(木)	セッション (5会場) 9:00	特別講演 セッション (5会場) 17:00	バンケット 18:00~20:00
10月5日(金)	セッション (5会場) 10:00	閉会式 12:00	

注) 5会場ではA, B, C, DおよびS（特別セッション）が行われる。